

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071300630		
法人名	社会福祉法人愛光園		
事業所名	愛光園第2グループホーム 【ユニット名:愛】		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1386		
自己評価作成日	平成23年1月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071300630&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方に四季を感じながらゆつくりと生活してもらえるよう援助するようにしています。医療機関と連携し健康で安心して生活できるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

裏庭の菜園で旬の野菜が収穫でき、入居者の楽しみとなっている。建物内は長屋をイメージした「和」の造りで、入居者が使いやすいように家具のデザインや配置を工夫している。また、法人が運営する複数の施設やサービス事業所との連携や医療連携もとられていて、「医・食・住」の安心感を入居者に与えている。管理者は、地域住民に対してサポーター養成講座を開くなどして、地域への認知症の理解を広める活動も行いながら、「地域の中で暮らし続ける」ことへの取り組みを実践している。職員は入居者のペースにあわせて本人の持てる力を発揮できるよう支援している。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	少し長いですが「私たちは人と人とのふれあいを大切にします 地域の中で共に笑顔で健やかにその人らしい暮らしを続けていくお手伝いをします。 家庭的な環境の下喜びや活きがい尊厳のある安全で快適な生活を送るお手伝いをします。	外部評価結果を受け、開所時の理念を地域密着型サービスに沿った内容に作り直しているが、文章が長く、共通の認識を得にくい表現となっている。	理念はサービスの根幹となるもので、端的な表現が望ましい。全職員が共有しやすい簡潔な表現への工夫が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や通勤時に近所の人に会えば挨拶をしている。	住民会館での町主催の行事に入居者も毎月参加していて、住民や知人との交流ができています。近所との繋がりを心掛けて日常的な挨拶や会話が交わされており、散歩の時に野菜を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物時挨拶をしたり馴染みになってきているので「やんわりと」認知症の人について理解しはじめてくれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議をしているが不十分だと思います。	今年度は、住民会館での地域包括支援センター主催によるサポーター養成講座で管理者が講師を務めた事をもって運営推進会議の開催としているが、実質的な会議は行われていない。	運営者・管理者は地域に開かれた事業所として事業所を運営するために、会議の開催の意義や必要性についての認識を持ち、会議の開催に向かってほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議などに参加しているが	町主催による地域ケア会議に毎月出席して情報交換は行っているが、担当課との連絡は必要な事務連絡程度に留まっている。	町やすらぎ対策課と相互の連携を深めることで、地域に根ざした事業所としてのサービスの質の向上が期待できる。連携に向けて積極的な働きかけが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員については正しく、具体的には理解できていない人もいるが「何となく」は全員分かっている。 玄関は一人では出られないです。	研修は行っているが、職員間の意識統一ができていないといえない。玄関は2重にロックされ、1Fと2Fの移動や外へ出る機会は制限されている。	研修を行うと共に職員間で話し合いを持ち、共通認識を高めることを期待したい。施錠については、安全優先の中に不自由さがあることを再認識されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後勉強をしていきます。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後勉強をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に家族様等に説明し疑問点など質問してもらい、行き違いのないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は常時受け付けており利用者も言いやすい職員に言ってくれ、それを管理者に伝えている。	家族の訪問時に馴染みの職員が要望を聞き、職員全員で共有してサービスに活かすように努めている。季節ごとのホーム便りで近況を伝え、今後は行事の後に家族同士で話し合える茶話会を持つことも検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者さんへの対応は直ぐに意見を出し議論して反映できている。 大きな変更等(外食等)は出来ていない。	月1回のミーティングで職員の意見を聞いている。介護上の話題が中心となっており、施設全体の運営に関する意見が出されることはあまりないが、中堅の職員が個人レベルの声を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自向上心を持って働けるよう研修などに行ってもらっている。又有休が取りやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全老協や地域密着ケアネットの研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着ケアネットに参加し同業者と交流している。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人に面接し話しを聞き情報として役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族様に話しを聞き、情報として役立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他機関と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が自由に発言できる場面をつくり利用する側、介護する側の溝をなくさせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事参加時に発言しやすい雰囲気をつくり、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会など立ち寄りやすい雰囲気をつくっている。 家族さんの希望があれば墓参り等に外出してもらっている。	地域の行事で住民会館に出かけることで、以前住んでいた近くの人や知人に会う事ができている。又、知人の訪問や法人の施設やデイサービスの利用者との行き来で、馴染みの関係の繋がりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に数回会議の場をもち利用者同士の関係が把握できるよう努めている。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム、法人で対応できることはおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、本人の想いを繁栄できるように努めているが本人の意見が出にくい場合は本人本位で検討している。	本人から直接希望などは出にくいので、日常の会話から思いの把握に努め、センター方式の用紙や業務日誌に記入して共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の話を参考にしたりセンター方式を記入してもらったりして、把握できるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に利用者様の状態について会議の場をもち、介護者数人の意見交換のもと状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人の希望を反映できるよう情報収集し、職員で話し合い介護計画につなげている。	半年ごとのモニタリングではICF(生活機能)に沿った「暮らしの場面」に着目した課題分析を行い、家族やスタッフの意見を聞きながら、計画の見直しがされている。具体的な支援内容はミーティングで決めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンソフトに入力しており、いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所では対応できないことは、他の事業所や医療機関を中心に連携をとっている。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との繋がりはいり物以外殆どありません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関を中心に他科受診などもおこなっている。	個人が希望するかかりつけ医の受診は、家族が支援している。連携医の訪問診療も受けられ、適切な受診支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関の看護師が訪問してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時ADLなどの諸情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアなどについての指針をまとめ、家族様に説明している。	施設としての重度化した際や看取りの指針を、入居時に家族に説明し同意を得ている。以前は、重度化した際は連携する法人の施設に入所したが、今後、本人・家族の希望があれば、対応できる範囲での受け入れも検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練は行なっている。	入居者は混乱しないよう参加しないが、夜間を想定した火災避難訓練を年2回実施している。職員は初期消火や消防署への通報方法について十分周知できている。	

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いはもちろん気をつけています。個人記録の保管も施錠している。	研修を行い、本人に失礼のない言葉かけや節度ある対応を心掛けている。入居者によって親しみから慣れ合いの言葉にならないように、管理者や職員が相互に気付いた点を話しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話のなかで利用者の希望を見つけ、その希望をできるかぎり聞き入れ、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決まっているのでその中でその人のペースを大切にしている。どのように過ごすかも本人の希望に出来るだけ沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、髭剃りを促しているが寝癖が付いている利用者さんも居る。 服の購入は出来るだけ一緒に行き本人の気に入った物を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は毎日一緒に食べている。 又準備や片付けは毎回、利用者さんの日課となっておりさりげなく支援している。	法人の栄養士によるメニューを基に、近くのスーパーへ隔日に入居者と買い物に行く。準備や片付け、タオルたたみなど、役割を持つことで張り合いを持ち、職員との食事コミュニケーション作りに役立っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士と連携をとっている。水分の制限が必要な利用者さんは一日の水分量をペットボトルに入れ管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人にあった口腔ケアや義歯洗浄を行っている。		

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべく自立できるよう、トイレ誘導などを試み、オムツの使用は最小限にしている。	居室前の個別のトイレへのさりげない誘導で自立支援を促し、昼間は出来るだけおむつなしに過ごせるよう取り組んでいる。必要に応じて水分量もチェックし、排泄管理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体調を整える目的で体操を行い便秘ぎみの人は水分を多くとってもらうなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっている。その中で利用者さんの希望に沿える様にしている。	脱衣場や風呂場はゆったりとし、拒む人にもその日の気分を見ながら声かけをして、柔軟な支援を行っている。午後の時間帯に限られているが、隔日ごとに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気を訴える利用者さんには昼寝をしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に処方箋をファイルしている。 服薬カードを作り服薬時に照会している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活暦を聞き取ったりセンター方式に記入してもらったりして活かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、外泊は家族さんの付き添いがあればいつでも可能です。	職員の人数がある時は、裏の菜園での収穫や近くへの散歩、隣接するデイサービスへの訪問、買い物など、個人やグループでの外出が行われている。	

【事業所名】愛光園第2グループホーム ユニット名:愛

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が本人で所持できるひとは自分で管理してる。そうでない人も家族様より預かり買い物時に希望があれば買い物できる体制にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族さんとの折り合いをつけながら本人の希望を聞けるようにして自分で電話をかける人もいる。 手紙は利用者さんの思う様に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフ全員が混乱する刺激について理解しテレビや音楽の音量は大きすぎず聞こえる範囲になる様に気を付けています。 温度も冬は20℃以上、夏は30℃以下になるように注意しています。その他不快になる事が無い様に気を付けています。	広々して開放感があり、「和」を感じさせるデザインで落ち着いた雰囲気である。食器棚や冷蔵庫は壁に収納されて動きやすく、窓は大きくて快適な作りになっている。入居者は日中、共有スペースで過ごすことが多く、居心地よい空間が広がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間は大きく3つ程度に分けれますので、各自でそれを使って頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小物等は家から持参されています。 動かせる家具は本人さんの希望を聞いて置いています。	各居室の前の庇の掛った格子戸は家を思わせて安心感を与え、サニタリーを部屋の外に設置し、清潔感がある。本人の使い慣れた物を置き、個性ある居室作りの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に名前を貼ったりトイレが分からない方にはトイレの張り紙をして対応しています。 家事も出来る事を探して出来るだけ参加出来る様に工夫しています。		